

美国迪士尼公司 / 著  
邹波 / 译

日 汉 对 照

迪士尼大电影  
双语阅读

Disney

ベイマックス

超能陆战队

华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

Disney

# バイマックス

## 超能陆战队

美国迪士尼公司 / 著

邹波 / 译

 华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

· 上海 ·

## 图书在版编目 (CIP) 数据

超能陆战队 (日汉对照) / 美国迪士尼公司著; 邹波译.

—上海: 华东理工大学出版社, 2016.4

(迪士尼大电影双语阅读)

ISBN 978-7-5628-4537-9

I. ①迪… II. ①美…②邹… III. ①日语—汉语—对照

读物②长篇小说—美国—现代 IV. ①H369.4; I

中国版本图书馆CIP数据核字 (2016) 第036771号

迪士尼大电影双语阅读

## 超能陆战队 (日汉对照)

著 者 美国迪士尼公司

译 者 邹 波

项目统筹 戎 炜

责任编辑 王一佼

责任营销 曹 磊

装帧设计 肖祥德

出版发行 华东理工大学出版社有限公司

地址: 上海市梅陇路130号, 200237

电话: (021) 64250306 (营销部)

(021) 64250875 (编辑室)

传真: (021) 64252707

网址: [press.ecust.edu.cn](http://press.ecust.edu.cn)

印 刷 上海雅昌艺术印刷有限公司

开 本 880mm × 1230mm 1/32

印 张 6.75

插 页 16页

字 数 136千字

版 次 2016年4月第1版

印 次 2016年4月第1次

书 号 ISBN 978-7-5628-4537-9

定 价 39.80元

联系我们 电子邮箱: [press\\_wy@ecust.edu.cn](mailto:press_wy@ecust.edu.cn)

官方微博: [e.weibo.com/ecustpress](http://e.weibo.com/ecustpress)

天猫旗舰店: <http://hdlgdxpbs.tmall.com>

华东理工大学出版社



扫一扫用手机打开本书详情页

# 1 ロボット・ファイト

ここは、サンフランソウキョウという都市だ。

うす暗いレンガの通路を少年が歩いている。

名前はヒロ。十四歳。小さなロボットをかかえ、倉庫に入っていく。

中では、自分のロボットを戦わせ、勝てば賞金を手にできる、「ロボット・ファイト」が行われていた。

大勢が、試合を見ている。リングでは、ひとりの大男、ヤマが、つぎつぎと対戦相手を負かしていた。ヤ

001

## 一、机器人格斗赛

这是一座名为旧金山（San Fransokyo）的城市。

幽暗的夜色中，一个少年走在铺砖的街道上。

他叫小宏，今年14岁。只见他抱着一个小小的机器人，走进一座仓库。

仓库里正在进行“机器人格斗赛”，参加者让自己的机器人上台对决，获胜者赢取奖金。

围观者人头攒动。赛场上大块头“山哥”接二连三地击败

マは負け知らずで、すでに大金をかせいでいた。

「ヤーマ！ヤーマ！」

リングの周りで、男たちが叫んでいる。

ヤマのロボットには、片手にかぎ爪、片手に回転式ノコギリがついている。どんなロボットが対戦相手だろうと、あっというまに、めった切りにしてしまう。負けたロボットが、リングのそばで山積みになっていた。

ヒロが会場に入ってきた時も、相手のロボットをこなごなにして、賞金を手にしたところだった。

ヤマはじまんたつぷりに、大声で叫んだ。

「さあ、次に戦うやつはだれだ？おれのリトル・ヤマと、リングで一戦やろうって、肝っ玉のすわったやつはいないのか？」

002

挑战者，他战无不胜，赢了不少钱。

“山哥！山哥！”

观战者大声地鼓噪。

山哥的机器人一只手是钳子，另一只手上装了一台圆锯。挑战者碰上它，一转眼就被切得四分五裂。赛场边，挑战失败的机器人堆成了一座小山。

小宏走进场子的时候，正见到山哥的机器人把对手修理得支离破碎。山哥一把抓过奖金，趾高气扬地叫嚣道：“来啊，还有人挑战吗？谁敢和我的小山哥一决高下？就没有够胆的家伙

みんな全戦全勝のヤマにおそれをなして、だれも手をあげない。あとずさりするものばかりだ。

「ふん。つまんねえな。なあ、リトル・ヤマ。」

ヤマは、自分のロボット、リトル・ヤマの背中をぼんとたたいた。

その時、人だかりの中から声があがった。

「ねえ、ぼく、やってみてもいいかな？自分で作ったロボットがあるんだ。」

全員が、声のするほうをいっせいに注目する。そこにいた少年を見て、ヤマは大笑い。

すると、審判の男がいった。

「それはいいが、出場するには、金が必要なんだぞ！

金はあるのか？」

吗？”

全胜全胜的山哥让人恐惧，众人畏畏缩缩，没人举手应战。

“唉，真没劲。你觉得呢？小山哥。”山哥说着，拍了拍自己机器人的后背。

这时，人群中传出一个声音。

“喂，我可以试试吗？我有自己制作的机器人。”

众人齐刷刷地朝说话的人看去，山哥见是一个少年，哈哈大笑起来。

裁判问道：“可以啊，不过下场得出钱，你有吗？”

ヒロは、ポケットから金を出した。

「ほら、これでできる？」

ヤマは、目の前にいる小さな少年を見ていった。

「ちっこいの、てめえの名前はなんだ？」

「ヒロ・ハマダ。」

すると、見ていたものたちが、つぎつぎとふたりの戦いに金をかけはじめた。

ヒロは、ヤマのロボットよりも、うんと小さなロボットを持ちあげ、リング上に置いた。

「ふん、また、ひともうけ、してやるぜ。」

ヤマは自信たっぷりに、リトル・ヤマをリングの反対がわに置く。

戦い開始の合図がでたとたん、あつというまに、リトル

小宏从兜里掏出钱来。“你瞧，这些够吗？”

山哥打量着眼前瘦小的少年。

“小家伙，你叫什么名字？”

“我叫滨田宏。”

不断有观战者开始押注，赌他俩谁输谁赢。

小宏拿起一个比“小山哥”迷你得多的小机器人，放到格斗场上。

“瞧好了，再赢一把。”

山哥胸有成竹，把机器人放在格斗场的另一侧。

・ヤマは、ヒロのロボットを<sup>な</sup>投げとばした。いっしゅんのうちに、ヒロのロボットは、はねとばされて<sup>ま</sup>負けてしまった。

ヤマは、せせら<sup>わら</sup>笑いしながら、勝者<sup>しょうしゃ</sup>のもらう金<sup>かね</sup>を受けとり、ほこらしげにしている。ヒロは、自分<sup>じぶん</sup>のロボットをだきかかえていった。

「ねえ、今回<sup>こんかい</sup>がはじめてだったんだ。もう一度、戦<sup>いちど たたか</sup>わせてよ。」

ヤマは、あきれた顔<sup>かお</sup>をしてヒロにいった。

「こりないやつだな。あっさり負け<sup>ま</sup>をみとめたほうが身<sup>み</sup>のためだ！それに、戦<sup>たたか</sup>うには、また金<sup>かね</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>なんだぞ。」

ヒロは輪<sup>わ</sup>ゴムでとめた札<sup>きつ</sup>を出した。ふたたびゲームの始<sup>はじ</sup>まりだ。ヤマはみんなに聞<sup>き</sup>こえるようにいった。

「ぶっつぶしてやる！」

比赛开始的号令刚落，“小山哥”就把小宏的小机器人扔出场外。才一眨眼的工夫，小宏的机器人就被撞飞，出局告负了。

山哥笑呵呵地拿过获胜的奖金，洋洋得意。小宏抱着他的机器人，问道：“刚才才是头一回。能不能让我再比一次？”

山哥一脸腻烦地回了一句：“你真是不见棺材不掉泪，痛痛快快认输才明智。而且，再战一场又得出钱哦。”

小宏拿出一卷橡皮筋扎好的纸币，比赛重新开始。山哥生怕众人听不见似的大声嚷嚷：“瞧我怎么把你废了！”

小宏的脸色凝重起来，他把机器人切换到“战斗模式”。机



ヒロの目つきが変わった。自分のロボットを「ファイト・モード」に切りかえた。ヒロのロボットの顔が回転し、こわい顔つきになった。

すると、リトル・ヤマは、すばやいうごきでヒロのロボットにとっしんし、両手の武器でヒロのロボットをばらばらにした。

見ていた連中は、大声でさわぎ、ヤマは、勝ったとおも思いこみ、にやりと笑った。その時、ヒロがリモコンのハンドルをうごかした。

ヒロの小さなロボットは、元にもどり、ヒロの命令で、リトル・ヤマにおそいかかった。

今度のヒロのロボットは、何度切っても、また元にもどる。ぎゃくに、攻撃されたリトル・ヤマが、こな



器人的脸唰地一转，露出狰狞的表情。

“小山哥”飞快地冲向小宏的机器人，用手中的武器将对手分解成几块。

观众一片喧哗，山哥以为胜负已定，喜滋滋地笑了。正在这时，小宏开始操控遥控器的手柄。

小宏的机器人恢复了原样，在小宏的指令下朝“小山哥”扑了过去。

这一回，小宏的机器人被切散架后，每次都能复原，反倒是“小山哥”被攻击得散了架。

ごなになった。

ヒロのロボットは勝利し、ぎこちなくおじぎをした。  
ヤマは、信じられずに、ぼうぜんとしている。

「い、いったい、何が起きたんだ？おれの、ロボット  
が……。今まで、負けたこと、なかったのに……。」

ヒロは、にっこりと笑っていった。

「ぼくも勝てるなんて、びっくりだよ。まぐれだよな。  
もう一回やる？」

ヤマは怒りだした。

「おまえ、なんか、いかしましたな！

リトル・ヤマが負けるわけねえ！そのロボットを、  
よこすんだ！」

ヤマは、手下とっしよに、ヒロにつめよる。



小宏の机器人赢了，它有点笨拙地鞠了个躬。山哥难以置信地傻了眼。

“这，这到底是咋回事？我的机器人……从来都没输过……”

小宏微笑着说道：“我也很意外能赢。可能是碰巧吧，要不要再来一次？”

山哥怒不可遏。

“你这小子，肯定捣了什么鬼！小山哥不可能输！把你的机器人给我！”

山哥和手下一帮小喽啰逼近小宏。

「おじさんの<sup>きもち</sup>気持ちはわかるけどさ。ぼくは、ロボットを作るのが得意<sup>とくい</sup>なんだ。なんなら勝<sup>か</sup>てるロボットの作り方を、<sup>おし</sup>教えてあげてもいいよ。」

しかし、ヒロは、大男<sup>おおおとこ</sup>たちに追いつめられてしまった。

「だ、だからさ。ぼくは、いかさまなんてしてないんだ。おじさんのロボットが、ガラクタだったんだよ。」

「つべこべいうな。ほら、おまえのロボットをよこせ！」

ヒロは自分<sup>じぶん</sup>のロボットをヤマにわたした。

「おまえら、あいつをぶちのめせ！」

ヤマが手下<sup>てした</sup>にいった。そして、手下<sup>てした</sup>が、まさにおそいかかろうとしたその時<sup>とき</sup>、とつぜんバイクが乗りこんできて、ヒロとヤマの間<sup>あいだ</sup>に割りこみ、急停止<sup>きゅうていし</sup>した。



“大叔，你的心情我理解。我做机器人很拿手哦，要不我来教教你，怎么做出无敌的机器人？”

不过，这时候小宏已经被一群大个子逼到了角落。

“怎，怎么啦？我一点都没使坏，是大叔你的机器人太烂了。”

“别叽叽歪歪，快点！把机器人给我！”

小宏把自己的机器人递给了山哥。

“给我上！把他干掉！”

山哥吩咐他的小喽啰们。没等他们扑过来，一辆摩托车突然冲到小宏和山哥中间，急停下来。

ヘルメットをかぶってはいたが、兄あにのタダシだとわかった。

タダシは、ヒロをうしろの座席ざせきのに乗せると、ヘルメットをわたした。

「えっ、これ、かぶるの？」

ヒロは、いやそうに返事へんじした。

「しっかり、つかまってる！」

タダシは、ヒロがヘルメットをかぶると、バイクを急発進きゅうはっしんさせた。

ヒロはリモコンつかを使って、自分のロボットじぶんを呼びよせ、ぎゅっと手てにかかえた。

「返かえしてもらおうよ。これはぼくのだから。」

それどうじと同時に、バイクは倉庫そうこから飛びだした。

来人戴着头盔，小宏认出那是哥哥泰迪。

泰迪让小宏坐上后座，递给他一个头盔。

“不是吧，要戴这玩意儿？”

小宏不乐意地说道。

“抓紧咯！”

等小宏戴好头盔，泰迪立即加速。

小宏用遥控器召回了自己的机器人，牢牢地一把抓住。

“还给我吧，这是我的。”

话音未落，摩托车冲出了仓库。

## 2 ヒロとタダシ

バイクは、ネオンがきらめくサンフランソウキョウの町を走りぬけていく。

もう、だれも追いかけてこない。タダシは、ヒロのヘルメットをピシャリとたたいた。

「まったく、十三歳で高校を卒業したっていうのに、何をやってるんだ！いつまでロボット・ファイトなんかやってるつもりだ！禁止されたかけごとだぞ！」

兄のタダシは、サンフランソウキョウ工科大学の優

010



### 二、小宏和泰迪

摩托车在霓虹闪烁的旧金山街道上飞驰而过。

后面没了追兵。泰迪狠狠地敲了一下小宏的头盔。

“真受不了你！13岁就高中毕业了，还干这种事！机器人格斗赛你打算干到什么时候？这种赌博是明令禁止的呀！”

哥哥泰迪是旧金山理工大学的高材生，他很担心弟弟的前途。

しゅう がくせい おとうと しょうらい しんぱい  
秀な学生で、弟の将来を心配している。

ヒロは、大学の勉強にまったくきょうみがない。高校は飛び級で卒業したのに、毎日、ロボット・ファイトで金をかせいでいた。

「兄さんみたいに、大学へ行く意味はあるのかな？ぼく、わからないんだよ。」

タダシは、あきれ顔だったが、今はそれどころではない。

「おっと、続きはあと。こりゃ、まずい！しっかり、うしろに乗ってるよ。」

タダシは、バイクのスピードをあげ、ビルの間をすりぬけていった。ヤマたちの車は、しつこくふたりの乗るバイクを追いかけてきたが、とちゅうであきらめ

小宏对上大学毫无兴趣。虽然一路跳级直至高中毕业，却整天参加机器人格斗赛挣钱。

“哥哥，我不明白，像你这样读大学有意义吗？”

泰迪一脸无奈，不过现在不是聊这些的时候。

“糟糕！回头再聊，麻烦来了，坐稳了！”

泰迪加快了摩托车的速度，在高楼之间穿梭远去。一直驾车紧追不舍的山哥一伙人，似乎中途放弃了。

たようだ。

「うまいこと、まいたかな？」

タダシが<sup>あんしん</sup>安心したのもつかのま、<sup>こんど</sup>今度は<sup>あか</sup>赤いランプをつけたパトカーが、サイレンを<sup>な</sup>鳴らして<sup>お</sup>追いかけてきた。

スピード<sup>いはん</sup>違反か、ギャンブルの<sup>と</sup>取り<sup>し</sup>締めりかもしれない。タダシは、バイクのスピードをさらにあげて逃げようとしたが、<sup>ゆ</sup>行く<sup>て</sup>手の<sup>ろ</sup>路地<sup>じ</sup>をパトカーにふさがれてしまった。

「まずいっ！しまった！」

あえなくふたりは、<sup>けい</sup>警官<sup>かん</sup>につかまった。

「ヒロ、おまえのせいだぞ。」

タダシは、<sup>おり</sup>檻<sup>そと</sup>の外から<sup>み</sup>見つめる<sup>もんく</sup>ヒロに文句をいった。



“成功甩掉他们了吧？”

没等泰迪松口气，身后警笛大作，警车闪着红色警灯追了上来。

摩托车可能超速了，也可能是来抓赌的。泰迪继续加速，试图逃脱，可是前面的巷口也被警车堵住了。

“糟了，这下完蛋了！”

无奈，两人被警察逮住了。

“小宏，都是你害的。”泰迪对铁栏杆外的小宏抱怨道。小

未成年のヒロは、警察の牢屋にいれられず、兄のタダシだけが、スピード違反者専用の留置場にいれられてしまったのだ。

「ごめんね。たぶん、キャスおばさんが、迎えに来てくれるよ。」

ヒロは、ばつが悪そうにタダシにいった。

タダシとヒロは、ふたりきりの兄弟で、両親は小さいころに亡くなり、親戚のキャスおばさんに育てられた。

キャスおばさんは、警察からの連絡を受けて、あわてて車を飛ばしてやってきたらしい。警官は、タダシを留置場から出してくれた。

「さあ、きみ、外で、おばさんが待っている。もう、

宏未成年，无须蹲班房，泰迪则被关进了超速行驶的专用拘留室。

“对不起，也许，卡斯阿姨会接我们出去。”

小宏尴尬地望着泰迪。

泰迪和小宏是相依为命的兄弟，他们年幼时父母双亡，是亲戚卡斯阿姨把他们抚养成人。

卡斯阿姨接到警察的电话，急急忙忙地开车赶到警察局。警官把泰迪从拘留室放了出来。

“来吧，你阿姨在外面等你呢。以后可不能再超速了，这次



スピード違反<sup>いはん</sup>なんか、するんじゃないぞ。今回は反省<sup>ごんかいはんせい</sup>  
文<sup>ぶん</sup>を書<sup>か</sup>いたから許<sup>ゆる</sup>してやろう。」

タダシとヒロが警察署<sup>けいさつしょ</sup>からでてくると、待<sup>ま</sup>っていた  
キャスおばさんは、ふたりにだきついた。

「まったくもう！ふたりして何<sup>なに</sup>をやっているの！けが  
はない？だいじょうぶなのね？」

「おばさん、だいじょうぶだよ。」

ヒロが、めんどろそうに答<sup>こた</sup>えると、キャスおばさんは、  
怒<sup>おこ</sup>りだした。

「まったく、ふたりとも、何<sup>なに</sup>を考<sup>かんが</sup>えているんだか！  
おかげで、店<sup>みせ</sup>を早<sup>はや</sup>じまいしなきゃいけないかったのよ。」

おばさんは、ふたりの耳<sup>みみ</sup>をきゅっとねじって、ふく  
れっ面<sup>つら</sup>をした。



写份悔过书了就放过你。”

泰迪和小宏刚走出警署大门，等候多时的卡斯阿姨就紧紧地抱住他们。

“真是的！你们俩干啥去了？有没有受伤？没事吧？”

“阿姨，没事啦。”

小宏不耐烦地回答道。卡斯阿姨气不打一处来。

“真受不了你们，做事也不动脑子！害得我不得不提早打  
烩。”

卡斯阿姨揪住两人的耳朵，一脸怒气。